



# 児文研だより

令和4年12月21日

NO. 5

【河邊（上作延小）】

【木上（久本小）】

## 第70回 川崎市立小学校 高津区学芸大会 報告

令和4年12月1日（木）、12月2日（金）に、川崎市男女共同参画センター「すくらむ21」にて、高津区学芸大会が行われました。1日目には5校、2日目には3校が集まり、練習の成果を発揮し、のびのびと表現する子どもたちの素晴らしい姿が見られました。協議会では、練習の工夫やご苦勞、表現活動を経ての子どもたちの変容などをうかがうことができ、感想や意見交流など、有意義な時間を過ごすことができました。熱心にご指導いただいた先生方、本当にありがとうございました。また、運営に際しまして、ご理解ご協力いただき、感謝申し上げます。

### **1 日 目    1 2 月    1 日    (木)    午 前 の 部**

#### **『3つの世界の大冒険』**

西楯ヶ谷小学校 4年生

異世界の冒険の中で様々なクエストに挑戦し、課題をクリアしていくという設定で、いろいろな教科で学習した内容が盛り込まれた脚本だった。一人一人が得意なことを生かす姿が輝いていた。工夫を凝らした小道具や効果音、ダンスなどで舞台を盛り上げていた。

#### **『泣いた赤鬼』**

坂戸小学校 4年生

道徳の題材を生かした音楽劇で見ていて物語の世界に引き込まれる舞台だった。カラーパネルやコール隊、合奏やダンス、挿入歌など多様な演出で登場人物の感情がうまく表現されていた。舞台袖で待機する児童も一緒に演じる姿勢が素晴らしかった。

#### **『おばけなんてないさ』**

上作延小学校 4年生

一人一人が自分の台詞に責任をもち、役を担っていた。4年生の子どもの実態に合った内容の脚本だったので演技がとても自然だった。子どもたちは作者が脚本に込めた思いを受け、日々の練習を通して担任のこんな子になってほしいというねらいに迫っていた。

〈指導講評〉

川崎市立金程小学校校長 古賀 千穂

学習内容をつなげた脚本は大事な発表スタイルの一つです。演じることを通して学習のねらいを達成することが重要です。学芸大会の劇指導はプロの演者を育てることではなく、子どもを育てることが目的です。劇の練習を通して自分が今まで出せなかった力が出せた、みんなで力を合わせて乗り越えたという経験をぜひ次につなげてほしいと思います。

**1 日 目    1 2 月    1 日    (木)    午後 の 部**

**『われらテンオ！高津の子！』**

高津小学校 4年生

式典に合わせて地域の人の思いを伝える内容の劇だった。舞台上で演じる学芸大会版のキャストと客席に居る式典版キャストが同時に歌うことでホール全体が一体化し、臨場感を高めていた。大人数を舞台に乗せる難しさを逆に生かした演出が見事だった。

**『未来に残そう久本の祭り』**

久本小学校 4年生

地域に伝わる祭りを題材にした創作劇。お囃子の篠笛の音色や軽快な太鼓のリズムが心地よく、世界観に浸ることができた。みんなでこの舞台を作り上げる中で、劇中に何度も出てくる「挑戦・行動・楽しむ・仲間」というキーワード（学年目標）を達成していた。

〈指導講評〉

川崎市立中原小学校教頭 原 千恵子

実際に日頃子どもたちと触れ合っている先生方が、一人一人のよさを意識して脚本をつくらせていることが伝わってきました。役を演じる子だけではなく、歌や楽器の演奏を担当する子、道具をつくる子、コール隊など、みんなで作りに上げるのが劇の醍醐味です。学芸大会を通して学年が一つにまとまる体験を大切にしてください。

**2 日 目    1 2 月    2 日    (金)    午前 の 部**

**『幸せさがし』**

子母口小学校 4年生

総合で学習した福祉の単元を取り上げ、教師と児童が共に作り上げた作品になった。演技や小道具にあたたかみを感じられ、また、台詞を言っている人への視線もありコミュニケーションがよく取れていた。脚本は、教師、児童の思いが台詞に込められており、素敵な言葉がちりばめられていた。

**『ごんぎつね』**

東高津小学校 4年生

国語の「ごんぎつね」を演者、背景、台詞と分けての発表だった。特に一人一枚手作りのパネルをもった背景はとてもきれいで見事だった。全員の気持ちがそろっていたので、パネル・歌・演技・朗読のタイミングがとてもよかった。また、せつない物語をのびのびと演じることが素晴らしかった。

**『梶ヶ谷物語～受け継がれてきた獅子舞～』**

梶ヶ谷小学校 4年生

昔から地域に引き継がれている獅子舞を劇にすることにより代々傳承されている地域の宝を再確認できていた。劇の中で江戸時代と現代を行ったり来たりする場面転換も自然な演出になっていた。獅子舞と楽器、ひな壇で踊っている児童とそれぞれに自信をもって演技をし、最後の「やー」のかけ声とポーズが、迫力があり素晴らしかった。

〈指導講評〉

川崎市立柿生小学校教頭 支倉圭太

学芸大会に参加して下さったことや演劇を通して子どもたちのよさや可能性を引き出してくださったことに感謝したいと思います。自然と拍手が出るほど会場の雰囲気がとてもよかったです。それは、演技をした側と観劇をする側が共に学芸大会を作り上げたからです。今回の経験は、劇を学ぶのではなく、劇で学んだ貴重な時間となったと思います。